



ふたご座流星群^{りゅうせいぐん}を見よう！

2020年12月14日、ふたご座流星群が
 極大^{きょくだい}日を迎えます。私は1975年からこの
 流星群に注目してきました。スピードがゆ
 っくりなので、派手な印象^{はで いんしょう}はないものの、
 天気さえよければ常に^{つね たんたん}淡々と多くの流星を
 見せてくれます。数だけは、夏のペルセウ
 ス座流星群より多いくらいです。



ふたご座流星群 画：高部哲也

今年のふたご座流星群は、月の条件^{じょうけん さいりょう}が最良とされています。極大の日の前後1
 週間にわたり出現が見られます。特に極大日には、街明かり^{まちあ}の少ないところで、天
 気良ければ、1時間に100個もの流星を数えることができます。そして、ふたご
 座はほぼ一晩中^{ひとばんじゅうしず}沈まない^{しず}ので、長い間流星を楽しむことができます。

流星^{すいせい}は彗星^{ほうしゅつ}から放出されたチリが地球とぶつかって光る現象です。チリを放出
 した天体を母彗星と呼んでいました。ところが、ふたご座流星群の「母彗星」は、
 小惑星^{しょうわくせい}フェートンです。フェートンは小惑星と彗星の性質あわせて持つ天体だっ
 たのです。時には別の小惑星が彗星のように尾を引く現象^{お ひ げんしょう}も観測されるようにな
 り、小惑星の中には彗星と区別のない天体がかなり多くあることが分かってしまし
 ました。1990年代のことです。昔は「なぜ小惑星から流星が？」と思っていました
 が、今では、小惑星起源^{なっとく}の流星でも納得^{なっとく}できるようになり、彗星とあわせて母天体^{ぼてんたい}
 と呼ぶようになりました。

2020年12月4日記（解説員：田部一志^{かいせつじん}）